



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第106号

2012.11.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」  
の名前をつけています。

## もくじ

### お知らせ

- －観察会の日程変更について
- －冬期閉館について

### 活動報告

- －ゴギの産卵の観察会

### 観察会案内

- －千町原 秋の保全活動
- －紅葉・冬芽の観察会
- －かんじき作り
- －冬を生きる動物の生態

## お知らせ

### ●観察会の日程変更について

- ・紅葉・冬芽の観察会  
(変更前) 11月18日 → (変更後) 12月1日

上記の開催日程が変更になりました。詳しくは4  
ページ「観察会案内」をご覧ください。

### ●冬期閉館について

高原の自然館は、下記の期間は閉館となります。  
来館の際はご注意ください。なお、冬期閉館中の連  
絡先は下記の通りとなります。

冬期閉館期間：11月26日～4月24日  
冬期連絡先：北広島町役場芸北支所  
〒731-2323  
広島県山県郡北広島町川小田75  
メール：staff@shizenkan.info  
電話番号：080-6334-8601  
FAX：0826-35-0386

# 観 察 会 報 告

## ● ゴギの産卵の観察会

開催日時：2012年11月11日(日) 9:30

講師：内藤順一

前日からの雨のなか、6名の参加者が大朝公民館に集合しました。うち2名は小学生の女の子です。夏休みにスケッチしたゴギのイラストを披露してくれました。実際川に潜った時に見かけたそうで、一瞬だったにもかかわらず、特長をよくとらえて描かれており、講師の内藤先生も絶賛のスケッチでした。

ゴギは中国地方に生息するイワナの種類で日本の固有種です。一番大きな特長は、頭頂部に瞳大の白い斑点をもっていることです。生息地やゴギの発見、研究の経緯、名前の由来を、内藤先生が詳しく解説されました。またゴギは広島県では絶滅危惧種Ⅰ類で、たいへん貴重な種だそうです。

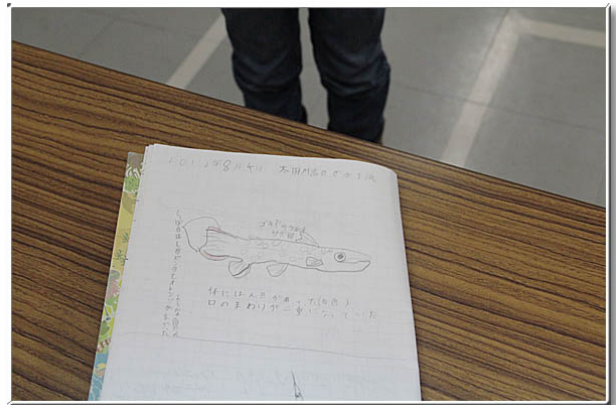
ゴギが産卵する場所を産卵床といい、メスが川の底を掘って作ります。内藤先生が記録された産卵前後のゴギの行動も見せていただきました。長年観察されている内藤先生の視点での解説は、ゴギのメスオスそれぞれの動きの特長が大変よくわかりました。例えば産卵前のメスは体をくの字にして腰をゆらすこと、オスがメスをつつき産卵を促す動きをすること、産卵後メスは30分～1時間「舞」と呼ばれる行動をし、砂をかけて卵を守ることなどです。同じサケ科のサツキマスの産卵も見せていただきました。サツキマスは産卵後すぐ砂をかける行動が、ゴギと異なる点だそうです。そこには産卵環境の違いもあるとのことでした。

「それぞれの種が工夫をして命のうけわたしをしているんだよ」という内藤先生の言葉が印象的でした。内藤先生が撮影したばかりの、大朝地域のゴギの映像も見せていただきました。特長は鼻やヒレが鮮やかなオレンジ色だそうです。ゴギの撮影のおまけで、これも絶滅危惧Ⅰ類のカワネズミが川底を横切るの映像もみせていただきました。座学が終わる頃、雨も弱まり現地へ向かうこととなりました。

[ ころのやよい ]



観察会開始前に、内藤先生にスケッチをみてもらった小学生。



夏休みに描いたスケッチをみせてもらった。細部まで描かれ、特長もつかめており、すごいスケッチ力！観察力にびっくり。



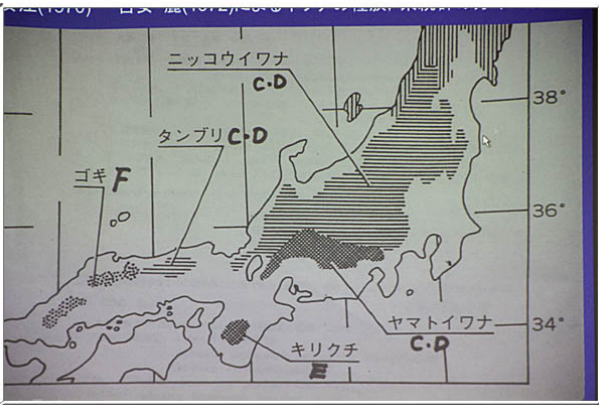
内藤先生からゴギの解説。江戸時代の書物「芸藩通史」には「吳岐」との表記があったらしい。



ゴギの特長は、頭頂に瞳大の白い斑点を有すること。学名にも反映されている。



現地にて、産卵床が見えた。



全国的に見ると、ゴギの生息地はきわめて狭いことがわかった。



ゴギの産卵の動画は何度見ても神秘的！命をつなぐ姿に感動した。

### 【みなさんの印象に残った物】

「ゴギの色がとてもあざやかでおどろきました」「ゴギの産卵行動と繁殖戦略」「ゴギの体の色がとてもきれいだったこと(2)」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「また見たい」「とても貴重な体験でした。ありがとうございました」「サケ科やイワナ全般のお話も聞け、全体像がよく分かりました。ゴギの不思議な生態がきれいな映像とともに説明を受け、とてもよく理解できました」「ゴギについてよく分かりました。ありがとうございました」「こどもたちも期待していた野生のゴギペアの姿を実際に目の当たりにでき、とてもうれしかったようです。実際に見てみると、白い斑紋だけでなく、黒点が意外に目立ったことが、印象に残りました。なんとっても砂底の白を背景に、婚姻色の赤が一際きれいに映えていたのが印象的でした。短時間でしたが、メスが横になって産卵床を掘る姿も二度も見れ、興奮しました。雨の中、ほんとうにありがとうございました。」

※ 松田賢さんに写真の提供をしていただきました。ありがとうございました。

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳  
**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ● 千町原 秋の保全活動

開催日時：2012年11月23日（金・祝）  
8:00～16:00（予定）  
集合場所：山麓庵  
参加料：500円

地域住民・ボランティアで支え合い行ってきた、千町原の秋の草刈りも9回目をむかえます。樹林の伐採、草刈りを継続して行います。作業から生まれる会話や交流も楽しみの一つです。ふるってご参加ください。詳細はお問い合わせください。

### ● 紅葉・冬芽の観察会

開催日時：2012年12月1日（土）13:30  
集合場所：高原の自然館  
講師：斎藤隆登  
準備：基本セット、ルーペ  
定員数：30名  
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料）

「冬芽」って何だろう？花や葉がある時期では気が付かない観点から、植物の観察を行います。講師の斎藤先生オリジナルの資料をもとに、丁寧な解説を聞きながら、一種類ずつじっくり観察します。ルーペがあるとさらに細かい部分が観察できます。

### ● かんじき作り

開催日時：2012年12月9日（日）10:00  
集合場所：八幡高原センター  
講師：坂井健作  
準備：基本セット  
定員数：30名  
参加費：一般=300円  
賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
材料費：1,400円

きたひろしまのかんじき作りの達人、坂井先生より冬の必需品かんじきの作り方を習います。深い雪の中で暮らしてきた先人の知恵に加え、坂井先生の工夫がこめられているかんじきは、丈夫で長持ちします。冬の楽しみにひとつ、ご自分用に作ってみませんか？

### ● 冬を生きる動物の生態

開催日時：2013年1月14日（月）10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、かんじき・スノーシューなど  
定員数：30名  
参加費：一般=300円  
賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料

おーいの丘をめざし、千町原を歩きます。動物たちの足跡からどんなことがわかるでしょう？真っ白い雪の上にいきものの姿はあるのでしょうか？かんじきやスノーシューを履き、歩きながらいきものの姿、サインを探しましょう。

八幡の植物はほとんど終わり、次の春の訪れまで少しの間お別れとなりました。自然館周りの紅葉も終わり始め、薄灰の少し寂しい景色が目立つようになってきました。空気の冷たさや夜の訪れが早くなってくると、秋の終わりや冬の始まりが少しずつ近づいているのを感じます。閉館まで残り少ないですが、秋と冬が入り交じったこの季節を見たり、写したりと、色々な所で楽しもうと思います。（はたもと）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

#### 高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1  
tel. & fax : 0826-36-2008  
<http://shizenkan.info/>  
[staff@shizenkan.info](mailto:staff@shizenkan.info)